

プロジェクト名

JCDN 国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト

プログラムの趣旨、目的

日本と海外のダンスアーティストが、ダンス国際交流を通じて互いの活動の視野を広め、共同創作を通して、双方が質の高い芸術文化を創造・発信していくことを目的とします。

そのために、

■JCDN の持つネットワークを活かし、日本各地のダンスの拠点となる劇場・オーガニゼーション等と連携を結び、海外から招へいするダンスアーティストの作品創作を可能にするダンス・イン・レジデンスの拠点を創りだしていきます。

■JCDN が取り組んできた海外とのダンスプロジェクトなどを通じて構築してきたダンスネットワークを活かし、海外の芸術団体組織とパートナーを組み、その国のダンスアーティストを招へいし、わが国にてレジデンスを行い、日本人ダンスアーティストとの共同作品創作を行なう。

■同時に日本人ダンスアーティストが相手国にレジデンスして、その国のダンスアーティストと作品創作を行う。双方のレジデンス・エクスチェンジ・プロジェクトとして実施することで、国際的に活動するダンスアーティストの活動支援、作品創作のサポートを行っていきます。

<具体的な目的>

- ①アジア、欧米諸国とのダンスネットワークを構築し、ダンスアーティストの情報・発信力を強化すること。
- ②国際的な活動の相互影響を高めるため、作品創作の成果として両国でのツアーを実現させる。その実現に向けて、国内各地における芸術文化の環境を創っていくこと。
- ③ダンスアーティスト、オーガナイザー間の国際的なダンス交流を促進し、芸術環境を豊かにするため、各地のレジデンス拠点がその地域のダンスのプラットフォームとしての機能を創り出していくこと。
- ④国内外のレジデンス施設間のネットワークが生まれ、行き来することで作品制作の途中経過発表やミーティングなどを通じ、新しいアイデアや方向性が生まれる機会を創ることができる。
- ⑤各地でのアーティスト・イン・レジデンスの理解を含め、認知度が上がることにより、国内外のダンスアーティストやその作品が、劇場の中だけにとどまるのではなく、地域や人々とのダンスによる国際交流が生まれ、その地域の歴史、文化と交流を持つことで、劇場や文化施設とアーティスト、地域とのコミュニケーションが活発になる。

海外から招聘するダンスアーティスト選出方法

本プロジェクトに相応しいアーティストを選出するために、下記の二つの方法を想定している。

- 1) JCDN と海外のパートナーとなる劇場・文化組織と相談し、ディレクターが推薦するアーティストを数名あげる、あるいは、パートナーとなるディレクターが興味を待つアーティストを選出する。その中から協議してアーティストを選出する。
- 2) 本プロジェクトの特色を明記した公募要綱を作成し、パートナーとなる文化組織が主体となってその国のダンスアーティストを公募する。パートナーとなる文化組織の各WEBサイト、メールマガジン、またその国の拠点となる劇場、コーディネーターなどに協力を要請し広く告知する。
選考方法は、JCDN とパートナーとなる文化組織のディレクターが、ダンス評論家、劇場関係者等の情報や意見を取り入れた上、協議し選出する。

招へいダンスアーティストの応募条件

本事業の企画趣旨、目的に賛同した上で、日本で1ヶ月以上の期間滞在し、日本人芸術家と作品創作に取り組んでみたいと要望するダンスアーティスト。

自身の創作したダンス作品の批評文と、30分以上のダンス作品映像を3作品以上提示できること。英語で基本的なコミュニケーションが可能なこと。5年以上のダンスアーティストとしての経験があり、その活動実績が劇場、文化組織などの推薦を受けられるアーティスト。

招へい者への支援内容

- *共同創作する国内芸術家を選出するコーディネートを行なう。公募の場合、公募から選考までをオーガナイズし、招へいアーティストが、決めやすい環境をつくる。あるいは、作品制作の初めから、誰か特定のアーティストと作品制作を行ないたい場合、そのコーディネート。
- *創作した作品を発表できる公演の機会をつくる。
- *招へい者が質の高い作品創作を実施できるように創作環境を整える。
- *往復渡航費、宿泊先の手配確保 作品制作費のサポート。
- *作品創作場所の提供—総合舞台芸術作品として、必要な創作環境を整える。

本プロジェクトは、2011年から2015年まで継続して行う予定である。

2011年—2012年 本年度プログラムの概要

プログラム名

「日本—フィンランド コンテンポラリーダンス レジデンス エクスチェンジ共同製作プログラム」

日本とフィンランドのダンスアーティストが、作品制作と作品発表を両国のパートナーシップのもと実施し、質の高い作品の完成を目標とする。そのために必要な環境や方法を両国のオーガナイザーがつくりだす。

パートナー(共同製作)団体名: 日本: JCDN / フィンランド: ZODIAK www.zodiak.fi

関連フェスティバル 日本: 鳥の演劇祭4、フィンランド: フルムーンダンスフェスティバル

<プログラム概要>

本プログラムで作品制作するダンスアーティストは、日本サイドは、坂本公成(モノクロームサーカス主宰)、フィンランドサイドは、エルヴィ・シレン。

この二人が、互いの国のダンサーと作品創作を行い、上演する。

初めに、本プログラムに参加するダンス・アーティストが、どのような作品を創作している振付家なのかという紹介の意味で、エルヴィ・シレンは日本: 鳥の演劇祭(2011年10月1日2日)で、坂本公成はフィンランド: フルムーン・ダンス・フェスティバル(2011年7月)で自身の振付作品を上演し紹介する。

その際、新作を共同創作する相手国のダンスアーティストを選出する為に、ワークショップ形式のオーディションを行なう。

選出したダンスアーティストとの作品創作を坂本は2012年3-4月ヘルシンキで行い、その後、ヘルシンキで公演を行う。エルヴィは2012年1/25-2/25まで東京で行い、その後3/1,2 京都公演で上演する。翌年度に両作品を、フィンランド・日本の両国で同時上演する計画である。

■エルヴィ・シレンが創作する作品の途中経過の試演会。会場: 東京 森下スタジオ

実施月日: 2012年2月中—下旬。一回上演。入場無料。

作品創作を約1ヶ月間行う東京・森下スタジオ(公益社団法人セゾン文化財団の所有スタジオ)で、創作途中経過の発表を試演会として行う。終演後、創意思図やプロセスなどをアフタートークで紹介し、観客のレスポンスを聞き、その後の作品創作につなげる。

■ 京都公演 会場: 京都芸術センター 1F フリースペース 共催: 京都芸術センター

実施月日: 2012年3月2日3日。2回公演。

■エルヴィ・シレンが作品制作する日本人ダンス・アーティスト選出方法

2011年9月22日—25日の4日間、東京森下スタジオで、振付家エルヴィ・シレンによるワークショップ形式のオーディションを開催。共同創作をする日本人アーティストを選出する。

また、それ以外に、エルヴィ・シレンの共同創作者の希望を事前に聞き、JCDNとZODIAKで推薦したアーティストも内定している。

藤本 隆行/kinsei(ディレクター・照明デザイン) / 川口隆夫(パフォーマー) /

■ 創作期間・場所

2012年1月23日 来日

2012年1月25日～2月25日(32日間) 東京森下スタジオ

2012年3月1日～3日(2日3日は公演) 京都芸術センター

- * 本年度に関しては、森下スタジオのみで作品創作を行なうが、JCDN が過去にダンス・イン・レジデンスを実施してきている全国各地でのレジデンスを実施していく予定。
- * 混浴温泉世界フェスティバル BEPP PROJECT(別府市)／鳥の劇場(鳥取市)／福岡市文化芸術財団の施設(福岡市)／京都市芸術センター(京都市)／札幌コンカリーニョ(札幌市)など

共同企画・主催:  (日本) /  (フィンランド)

平成23年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業 

助成: 公益財団法人  セゾン文化財団、 THE FINNISH INSTITUTE IN JAPAN、(国際交流基金 PAJ 欧州)

関連企画: 鳥の演劇祭4 (日本) / フルムーン・ダンス・フェスティバル(フィンランド)

NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークの設立目的・理念・運営方針

ダンスは言葉や道具を使わずに、自分自身の身体を使って表現しコミュニケーションするという他の芸術にはない特徴を持っています。“自分を見つめる力”“自己表現力”“他者との関係性を創る力”、これらがダンスを形創るための大きな力です。これらの力は同時に、人間が生きていく上で不可欠な“生命力”である、とも言えるのではないのでしょうか。

これからの日本の社会を考える上で、新たなる“生命力”を育てていくこと、それが現代社会において求められていることであり、“ダンスの持っている力”なのです。ダンスの持っている力を社会の中で活かしていくこと、子供から老人まで日常生活の中でダンスに触れる機会を創ること、その為の環境を創ること、それが JCDN の使命です。同時に、ダンスアーティストの作品発表及び活動が、アーティストの住む地域だけではなく、全国的に広がっていく為の制作的サポートを行うこと、それがダンスの環境を創る上で必要不可欠なことであると考えております。

JCDN はダンスの環境を創っていくとともに、日本における芸術のあり方を変革していく運動体＝アーツサービスオーガニゼーションを目指すものです。その為に JCDN は、NPO(非営利組織)として設立し、社会とダンスを結ぶ接着剤として機能していきたいと思っております。

過去に実施した同種事業の実績

2002-2009 年

日米振付家交換レジデンシープロジェクト

アメリカ: ニューヨーク/ダンスシアターワークショップとジャパンソサエティ

日本: JCDN がコーディネーターとなり、各地域からアーティストを公募・選出し、その選出されたアーティスト 4-5 組が共に、各開催地域に 1 週間ずつ滞在。各地での滞在中、スタジオワーク・ショーイング・作品制作・公開ミーティングなどを行うプロジェクト。

2002 年 第 1 回 レジデンス: フィラデルフィア・ニューヨーク・京都 / アーティスト: ヘッドロング・ダンスシアター(フィラ)、サラ・ピアソン & パトリック・ウイドリッグ・カンパニー(NY)、ヤザキタケシ(京都)、室伏鴻(東京)

2005 年 第 2 回 レジデンス: ボストン・フィラデルフィア・ニューヨーク・京都・松山 / アーティスト: 天野由起子(東京)・北村成美(大阪)、オーリー・フローミン(NY)、サラ・ラピドックス(ケンブリッジ)、タニア・アイザック(フィラ)

2009 年第 3 回 レジデンス: ボストン・ニューヨーク・京都・沖縄 / アーティスト: 鈴木ユキオ(東京)、きたまり(京都)、エイミー・オニール(シアトル)、カイル・エイブラハム(NY)

2004 年

JCDN 国際クリエイティブ・レジデンシープロジェクト

【アジア編】アジアと日本のコンテンポラリーダンスアーティストが、互いの国にレジデンスをして、コラボレーション作品を作る企画。アジアのアーティストは、インドネシアからムギヨノ、香港からダニエル・ユン、日本からは北村成美、砂連尾理。インドネシア・香港・京都でレジデンスをして、京都芸術センターで発表。

京都芸術センター「アーティスト・イン・レジデンス・プログラム 2004」プログラムコーディネーター

アメリカから、リズラーマン・ダンスエクステンヂとピアソン・ウイドリック・ダンスシアターを招き、それぞれ約 1 ヶ月間のレジデンスを行った。参加者は一般公募し、ワークショップを重ね、最後に Showing を行なった。この時に初めてダンスに触れた方々が、現在もダンスの活動を続けている。

2006 年

オーストラリアー日本ダンスエクステンヂ 2006

日豪友好協力基本条約 30 周年を記念して、オーストラリア・日本間のダンスによる国際交流プロジェクト“オーストラリア - 日本ダンスエクステンヂ (AJdX) 2006”を開催。このプロジェクトは、年間を通して

- 両国のダンスアーティスト/カンパニーによるコラボレーション作品の製作、
- 互いの国のダンサーへの振付作品の製作、
- 若手振付家とダンススペース間の交流プロジェクト、
- オーストラリアのダンス・サーカス・フィジカルシアターの紹介、を行う。

これらの作品創りや交流プロジェクトは、オーストラリアと日本間のダンス交流をより深く行うために、それぞれの地に滞在＝レジデンスを行い、日本では横浜・金沢・京都・大阪・山口・松山、オーストラリアではシドニー・メルボルン・ブリスベン・タウンズビルなどで行われ、各地にて作品を上演。

1) LUCY/KOTA Project

山崎広太とルーシー・ギャレンが互いの国でダンサーのオーディションを行い、山崎がメルボルン、ルーシーが京都、山口にレジデンスしながら作品を創作。日本で両方の作品が出会い、京都、山口で世界初演を行い、その後メルボルン国際フェスティバルにて上演。

2) SYDNEY/KANSAI Project

新進気鋭の両国 3 組つつ計 6 組のアーティストが、大阪フェスティバルゲート「Art Theater dB」「remo」などでダンスを繰り広げます。その後この 6 組は松山そしてシドニーへの旅とレジデンスを続け、最終地点のシドニーオペラハウスではクラブイベントを開催。

3) KINOKO Project

オーストラリアのインテリアデザイナー Justin Caleo と二本の珍しいキノコ舞踊団とのコラボレーション作品。ダンサー全員が 1 ヶ月近くメルボルンの元ミートマーケットでレジデンスを行い、その熱を日本に持ち帰り金沢の森で再度のレジデンスを経て、シドニー・金沢・名古屋にて上演。

4) CIRCUS Project

ブリスベンより、世界的に活躍しているサーカスカンパニーCIRCA が初来日。サーカスを新しいアートの形として捉え、豪州サーカス界に新風を巻き起こしたカンパニー。サーカスとダンスの融合した舞台は、観客をこれまでに体験したことのない世界に誘う。サーカスのワークショップも同時に開催。

5) BATIK x DANCE NORTH/SPLINTER GROUP Project

ブリスベンと横浜にて各1ヶ月間のレジデンスを行い作品制作を行う。2月に横浜でAJdX2006のオープニングイベントとして世界初演を行った。音楽・松本じろ、衣裳デザイン・山口小夜子が加わった最強のコラボレーション作品「Underneath」。再度のオーストラリアレジデンスを経て、タウンズビル、ブリスベンで公演。

2009年 海外アーティストのみ掲載

別府現代芸術フェスティバル 2009「混浴温泉世界」ダンス部門『ベップダンス』ディレクター

温泉の町別府での初めての国際アートフェスティバルにダンス部門が出来、コーディネーターとして、プログラムを組む。全てのプログラムにおいて、アーティストが別府にレジデンスし、その地でしか出来ない作品を制作し、発表する。公演会場も、温泉、商店街のアーケード、フェリー乗り場など、別府でしか体験できないダンス公演を目指した。

インターナショナル・コラボレーション

A:「NoMatter(入浴する女たち)」アーティスト:ジュリーニオシュ(仏)X 岩淵多喜子

B:「磁場、あるいは宇宙的郷愁」アーティスト:ボリス・シャルマツツ(仏)X 室伏鴻

2008年

ダンスライフフェスティバル 2008 海外アーティストのみ掲載

日本で初めてのコミュニティダンスのフェスティバルを開催。各地にアーティストがレジデンスをして、地域の対象者(高齢者・障がい者・子どもなど)を公募し、共に作品制作を行った。レジデンスをして長期に滞在することにより、アーティストと参加者の関係が深まった。初めてダンスに触れる人にとっても、アーティストがレジデンスしてその地に滞在していることが大きな支えとなった。下記のプログラム全てにおいて、2-4週間のレジデンスを経て、作品発表を行なう。

* 地域のあらゆる人たちに届けるダンス in 福岡 1

「子どもも大人もケチャ!ケチャ体験ワークショップ+発表会」

アーティスト:イクトゥット・リノ(インドネシア)

*地域のあらゆる人たちに届けるダンス in 福岡 2 「あなたの物語がダンスに変わる

—魔法のリズ・ラーマン・ダンスエクステンジ」アーティスト:リズ・ラーマン(米)

*地域のあらゆる人たちに届けるダンス in 福岡 3

「誰もがみんな 自分の魅力新発見 ストップギャップ」

アーティスト:ストップギャップ・ダンスカンパニー(英)

*子どもと障がいを持つ人たちと共に創るダンス in 富山 「コミュニティダンスの試み～誰もがみんな自分の魅力新発見+子どもワークショップ」アーティスト/ストップギャップ ダンスカンパニー・伊藤拓二

*高齢者と共に創るダンス in 札幌 「魔法のリズ・ラーマン・ダンスエクステンジ」

アーティスト:リズ・ラーマン・ダンスエクステンジ(米)